

報告事項（2） 「平泉の文化遺産」経過報告

1 主な経過

- (1) 推薦書の作成及び包括的保存管理計画の改定の具体的検討に着手した。また、追加指定が必要は資産についてはその準備。
- (2) 12月3日～4日に平泉文化史館において、「奥州藤原氏が構想した理想世界」をテーマに研究集会を開催した。一般に対しては、「平泉文化フォーラム」（平成28年1月21日～22日、於：奥州市文化会館Zホール（参加者：400名、登録5周年事業として実施））において成果等の公表を行った。
また、拡張登録検討委員会を2回（10月・1月）、海外専門家との意見交換会を1回（8月）開催した。

2 平泉保存検討部会

- (1) 日時 平成29年3月3日（金）13：30～16：00
- (2) 場所 岩手県水産会館中会議室
- (3) 出欠 出席24名（部会員16名、随員3名、事務局5名）欠席6名
- (4) 検討内容
 - ①報告事項
 - ア 世界遺産委員会決議への対応について
 - イ 経過観察記録の整備について
 - ウ 『「平泉の文化遺産」保存管理アクションプラン』の進捗状況について
 - エ 平泉の文化遺産ガイダンス施設整備について
 - オ 第40回ユネスコ世界遺産委員会について
 - カ 緩衝地帯における保存管理課題が顕著化している事例
 - ②協議事項
 - ア 保全状況報告書について
 - イ 準備状況報告書について
 - ウ 拡張登録について
 - エ 遺産影響評価について

3 平泉活用検討部会

- (1) 日時 平成29年3月6日（月）13：30～15：00
- (2) 場所 県南広域振興局第1会議室B
- (3) 出欠 出席15名（部会長、部会員12名、事務局2名）欠席4名
- (4) 検討内容
 - ①協議事項
 - ア 「平泉の文化遺産」活用推進新アクションプランの進捗状況について
 - ②報告事項
 - ア 「平泉の文化遺産」世界遺産拡張登録に向けたガイダンス施設整備について
 - イ 「平泉の文化遺産」ガイダンス施設整備のための部会設置について

《参考》

平成 29 年度「平泉の文化遺産」拡張登録に係る国際会議（研究集会）

主 催 岩手県教育委員会・一関市教育委員会・奥州市教育委員会
・平泉町教育委員会

開催日 平成 29 年 8 月 5 日（土）～6 日（日）

開催場所 東京都内

内 容 ○平成 29 年 8 月 5 日（土）

第 5 回研究集会（国際会議）

テーマ：世界のなかの平泉（仮）

内容（予定）：拡張登録に向けた 4 か年の国内研究集会成果の総括

○平成 29 年 8 月 6 日（日）

第 2 回「平泉」の拡張のための海外専門家との意見交換会（案）

趣 旨：「平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－」
の資産範囲を拡張するために、新たな顕著な普遍的価値の可能性を
検討すること。

内 容： 「平泉」（拡張）の顕著な普遍的価値の言明案について

【参考：報告事項(2)】

平成 24 年 10 月 26 日（金）
「平泉の文化遺産」の拡張登録に向けた関係者会議
於：平泉文化遺産センターふれあいホール

「平泉の文化遺産」世界遺産暫定一覧表記載後の基本方針に係る

岩手県・一関市・奥州市・平泉町申し合わせ（案）

- 1 岩手県、一関市、奥州市及び平泉町は、「平泉の文化遺産」の「拡張」推薦に係り、有識者委員会等から具体的な推薦を行うための調査研究の不足が指摘されていることから、当面、県及び市町において平泉文化の基礎的な調査研究を集中的に実施する。
- 2 個別資産の調査及び平泉全体を対象とする県と関係市町による共同研究集会の研究成果を集約した報告書を作成する。
- 3 県及び関係市町は、必要に応じて、推薦対象範囲について史跡等の指定又は追加指定及び史跡整備（計画策定を含む）を推進する。
- 4 世界遺産としての推薦の判断については、専門家の意見に基づいて行うこととし、その結論に関する以後の対応については別途協議する。

報告事項（2） 「縄文遺跡群」経過報告

1 国内推薦の状況について

- (1) 推薦書案「北海道・北東北の縄文遺跡群」等の提出（H28.3）
- (2) H28年度の国内審査の状況
 - ・「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連資産」（長崎県・熊本県）が推薦された。
 - ・「縄文」については課題が示され、推薦が見送られた。

2 縄文遺跡群世界遺産登録本部・推進会議について（事務局：青森県）

- H28 第1回推進会議（H28.9.23(金)秋田市）
 - ・文化審議会世界文化遺産・無形遺産特別委員会から示された課題について、共通認識を図った。
- H28 第2回推進会議（H29.3.6(月)青森市）
 - ・保全に関する共通理解を図った。

3 推薦書素案改訂に係る検討経過について

- 国際的合意形成事業
 - ・意見交換（H28.8.24(水)）
 - ・国際会議（H29.1.30(月)）
- 専門家委員会の開催及び個別意見聴取の実施
- 推薦書素案改訂作業ワーキング（全10回）

4 縄文保存活用検討部会

- (1) 日時 平成29年2月15日（水）10:30～12:00
- (2) 場所 二戸地区合同庁舎2A・B会議室
- (3) 出欠 出席11名（部会員8名、関係機関1名、事務局2名）欠席6名
- (4) 検討内容

①報告事項

- ア 「北海道・北東北の縄文遺跡群」推薦状況について
- イ 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の保存管理体制について
- ウ 御所野遺跡周辺の開発計画について

②協議事項

- ア 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の推薦書（保存管理部分）について
- イ 平成28年度における史跡、緩衝地帯及び景観の保全状況について
- ウ 「御所野縄文活用推進アクションプラン」（仮称）の策定に向けた事業実施状況について

5 普及啓発に関する事業実績

- 縄文フォーラムの開催（H28. 12. 18(日)、盛岡市）参加者：350名
- 4道県共同国際フォーラムの開催（H29. 1. 29(日)、東京都）参加者：450名
- 共通ホームページの運営
- プロモーション映像の制作（YouTubeで配信）
〔URL〕 <http://youtu.be/xxaaBnn8iE0> 等

《参考》

「縄文」について示された課題

1. 「北海道・北東北の縄文遺跡群」が主張する顕著な普遍的価値のわかりやすい表現。特に、世界の新石器文化の中で、本資産が主張する「縄文文化」の固有性または代表性についての論理的な説明。
2. 「北海道・北東北の縄文遺跡群」が主張する「定住の達成」、「環境への適応」という極めて普遍性のあるテーマを、各構成資産との関係に基づき本資産に特有の顕著な普遍的価値として主張できる論理の明確化。
3. 「日本文化の基層」という概念の有用性についての十分な検討。
4. 各構成資産がどのように全体としての顕著な普遍的価値へ貢献しているか、主張する評価基準との関係での合理的な説明。特に完全性の観点から、顕著な普遍的価値を当該17資産で過不足なく示しているかどうか、構成資産の選択についての検討。
5. 顕著な普遍的価値を示すのに必要な範囲について、キウス周堤墓群・亀ヶ岡石器時代遺跡などの史跡の追加指定
6. 資産に影響をおよぼす課題（既存の、または新規に計画されている道路）への対策についての明確な説明。
7. 関係自治体間の協力体制及び全体としての管理体制の在り方の強化。
8. 個別の構成資産にかかる保存管理計画を実行し、包括的保存管理計画のさらなる改善。
9. 来訪者管理戦略、資産全体としての価値の伝え方の戦略のさらなる精緻化。特に、遍在する来訪者をどのようにコントロールするのか、個別の構成資産でどのように全体の価値を説明するのか、展示・復元において真実性をどのように担保するのか等についての明確な説明。